

「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



主体的・協働的に学び行動する一中生！

「ふるさとを愛し、主体的・協働的に学び行動する一中生」を学校教育目標に掲げ、「日本一熱く絆強き学校」の実現に一中は挑んでいます。予測不能な変化の激しい時代を力強く生き抜いていくために必要な「生きる力」。この「生きる力」として「学力の3要素」が示されています。同時に、「何のために学ぶのか」ということを経験と生徒が共有して、生徒自らが主体的に学ぶとする姿勢を育てることが求められているのです。要素①「知識・技能」とは、「何を理解しているのか、何ができるのか」を示すものです。「学力の3要素」の土台であり、個別の知識だけでなく、学習内容が相互に関連づけられて社会の中で生きて働く知識を指します。「なぜそうなるのか」など深い理解・学びをしていくことで、社会で生きるための知識と技能につなげるのです。要素②「思考力・判断力・表現力」とは、「理解していること・できることをどう使うか」の力を育むことで未知の状況にも対応できる力を養うのです。変化が激しく予測困難な状況の中でも、物事の中から問題を見つけ、解決の方向性を決め、方法を探して、計画・実行しながら次の問題発見と解決に繋げられる力を培うわけです。要素③「主体性・多様性・協働性」とは、主体的に学習に取り組む態度であり、学びを人生や社会に生かそうとすることです。培った知識・技能をもとに、思考力・判断力・表現力を使って自分の考えをつくり上げ、主体的に学び、様々な考え方を理解したり、多様な方法で自分の考えを表現してグループとしての意見を形成したりといったことです。少し難しい話だったけど、こういう風に学校でいま君が学んでいることは将来の君につながり、君自身の生き方を支えていく力となるわけです。「何のために学ぶのか」ということを常に念頭において、授業の中で「なぜそうなるのか」と深めた自分の考えを持ち、インプットするだけでなくアウトプットすることを強く意識していきましょう。学校生活や行事を通して、自治力を発揮し、課題を発見し解決することを積み重ねながら、絆づくりの中では互いに深く関わり合いながら、同じ目的に向かって仲間と共に汗を流していきましょう。その質が高まるほどに必ず君たち一人一人に「生きる力」が備わっていくのです。だから「生徒と先生で共に創る授業」のレベルアップが欠かせないのです。「授業でつながってこそ本物の絆」「班は学級の命」という「日本一の絆」「一人も取りこぼさない絆づくり」に挑んでいくのです。「**主体的・協働的に学び行動する一中生**」へ、**我らここに挑む！**

学力の3要素

主体性・多様性・協働性

思考力・判断力・表現力

知識・技能

主体的：自分の判断や意思に基づいて考え行動する。

協働的：同じ目的に向かって共に汗を流す。

【令和3年度大分県学力定着状況調査】(2年生) 5教科

- 国語・社会・数学・英語で「知識」「活用」とともに全国と県の平均を上回った。特に国・数・英は全国平均を8ポイント以上大きく上回り、県下でもかなり上位の高いレベルだった。
- 大切にしたい達成率(設定された到達目標をクリアした生徒の割合)も、国語 87.9・数学 83.3・理科 87.9 ととても高く、社会・英語も70%以上だった。素晴らしい。
- 全教科で「活用」問題に向上がみられ、授業での取り組みの成果が見られる。
- 正答率40%未満のつまずきを各教科(特に理科・英語)で持つ生徒がでてきている。

【令和3年度全国学力・学習状況調査】(3年生) 2教科(国語・数学)

- 平均正答率は国語(8.9/14問)・数学(8.6/16問)ともに全国・県の平均をわずかに下回った。(全国:国語 9.0/14問・数学 9.1/16問)特に国語は「読むこと」、数学は「図形」の正答率が低かった。正答率40%未満のつまずきを持つ生徒が数学にやや多い。
- 国語の上位層が多く、その力はかなり高い。

今週は中3学力診断テスト・2年英検 IBA(県指定の英語推進校で実施)・英語弁論暗唱大会があり、まさに「**学習の秋**」真ただ中。○○の秋、**すべてに一生懸命になる秋**にしよう。

